

# 夢窓 幼稚園通信 第34号

2015年 9月 1日

暑かった夏から、いつの間にか涼しい風が流れるようになり、  
夜には虫の音が月の光の下で響いています。

「なつまつり」のときに、そのテーマと重ねるようにしてうたっていた歌  
「みんな おなじ 生きているから……」を続けてふくらませていきたい  
と思い歌詞を調べてもらいました。曲も知っていたところより長く、  
実に素敵な詞で、まさに つながる「いのち」がテーマになっている  
のに びっくり！でした。

早速子どもたちとうたおう…と、夏期保育からあちらこちら流して歩き、  
お泊り会でも年長の子どもたちはたくさんうたいました。  
こんな歌詞です。どうぞよかったら一緒にうたって下さい。

ぼくから見れば 小さなカメも アリから見れば きっと大きなカメかな  
みんな おなじ 生きているから  
一人に ひとつずつ 大切な いのち

ぼくから見れば 大きな家も 山の上から見れば 小人の家みたい  
みんな おなじ 地球の家族  
一人に ひとつずつ 大切な いのち

ぼくから見れば 東と西も よその星から見れば まるくてわかんない  
みんな おなじ 宇宙のなかま  
一人に ひとつずつ 大切な いのち

歌の題名は「まあるい いのち」でした。

7月に画家のおかだ美保さんが個展をされ、お知らせをいただいたので、  
出かけていきました。「たいせつなもの」というテーマを掲げられた水彩画展  
には、たくさんのおいのちの語りかけが響いていたのですが、小さないのちが  
宇宙とみんな結びついていて、再びまたそのいのちの流れや働きの中  
から、次なるいのちが生まれてくるのを予感させてもらえる絵に出会う

ことができました。

青い宇宙的ないのちの海の中で、生じ変化していくひとつひとつのいのちが黄色に輝き出す……別の言い方をすれば、今日の前の小さな野菜といういのちは そんな宇宙的なドラマの中で生まれ、また次のいのちを育んでいく……そういう営みそのものが 宇宙といういのちなのだ”なあと感じました。

不思議に 出会いというものは 重なるものなのでしょうね。

「まあいいいのち」……イカの曲だったのですが……彼女はその後、次の言葉で しめくくっています。

ふたつの手のひら      ほほに あてれば”  
伝わる ぬくもり      まあいいいのち  
ララララ —————

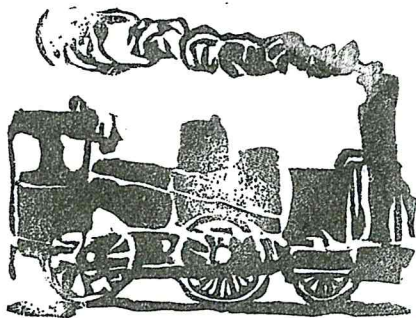
「ほほ」は自分のほほかもしれないし、目の前の誰かのほほかもしれません。自分のほほに 自分の手のひらを当ててみると、温かくて「あ、ほんとうだ、自分の中でいのちを感じる事ができるんだ！」 「こっちの手のひらからもうひとつの手のひらに ぐるりと いのちが つながっているんだ」と、うれしくなっていました。

向かい合う幼な子のほほに触れて ぬくもりを感じ合ったら、二人で まあいいいのちに きっと 静かに 微笑み合うことでしょう！

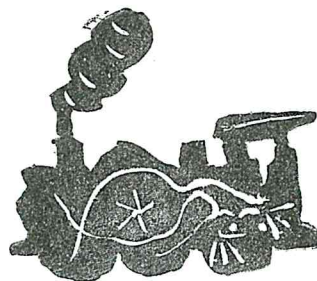
世界の出来事、宇宙の中で営まれている いのちの息づかい……まあよくめぐる いのちの流れは、自分と誰か(自分も含めて)の間で感じられるのですね。

人……マクロコスモスを内に響かせている ミクロコスモスとして、私たち一人ひとりが生きる意味を、この秋にも感じ合い過ぎていきたいと思います。

園長 升光 泰雄



たぐんいのちのせしめぐりていのかな!



音ハックさんの  
お泊り会の機関車館の  
言の葉スタンプをお預け  
した中 卒園生の  
武田夕梨花さん(1.5)が  
素直に消いごみで  
作ってくれました。